

世界のサステナブル投資ファンドの資金動向 2024 年第 4 四半期

強い逆風にもかかわらず欧州に牽引され純資金流入増

モーニングスター・マネジャー・
リサーチ

2025 年 2 月

目次

- 1 概要
- 2 グローバル
- 8 日本

水田 理沙
モーニングスター・ジャパン
マネジャーリサーチ部
アナリスト
risa.mizuta@morningstar.com

重要事項

Morningstar のアナリストの行為は、倫理規程/職業行為規範ポリシー、個人の証券等取引（またはこれに準ずる）ポリシーおよび投資調査ポリシーによって規定されています。利益相反に関する詳細については、以下をご覧ください。
global.morningstar.com/company/disclosures

概要

モーニングスターでは、四半期ごとにサステナブル投資ファンドの資金動向に関するグローバル・レポートを発表している。本日本語版レポートは、2024 年の第 4 四半期のグローバル・レポートの抜粋であり、サステナブル投資ファンドの市場動向を検証するとともに、日本におけるサステナブル投資ファンドの資金動向、運用資産残高、また新規設定についてを取り上げる。

主なポイント

- ▶ 世界のサステナブル投資ファンド全体の資金フローは、2024 年第 3 四半期の 92 億ドル（米ドル、以降特段の記載がない限り同様）の純資金流入に対し、2024 年第 4 四半期は 160 億ドル（推定値）に達し、四半期ベースでは 2024 年最高の純資金流入を記録した。
- ▶ 欧州のサステナブル投資ファンドは、前四半期の倍以上となる 185 億ドル以上の純資金流入があり、世界のサステナブル投資ファンドの資金フローを牽引した。
- ▶ 米国では、欧州とは対照的にサステナブル投資ファンドからの純資金流出が続き、その流出のペースは第 3 四半期の 20 億ドルから加速し、43 億ドルの純資金流出となった。
- ▶ 日本も米国と同様に、サステナブル投資ファンドからの純資金流出がさらに大きくなり、10 億ドル（1,665 億円）の流出となった（第 3 四半期は 5.9 億ドルの純資金流出）。日本を除くアジア全体では引き続き純資金流入が見られた。
- ▶ 主に株価下落により、世界のサステナブル投資ファンドの運用資産残高は減少し、2024 年 12 月末時点で 4%減の約 3.2 兆ドルとなった。
- ▶ サステナブル投資ファンドの新規設定は回復基調が見られ、2024 年第 4 四半期の新規設定は 86 本（前期は 60 本の新規設定）となった。日本では 5 本のサステナブル投資ファンドが同期間に新規設定され、そのうち 2 本が債券ファンド、3 本（ETF 含む）が株式ファンドであった。
- ▶ ファンドの償還やリブランディングの動きも更に活発になった。欧州では第 4 四半期に 94 本のサステナブル投資ファンドが償還・合併し、2024 年全体でみるとその数字は 351 本に上る。リブランディングについては、同年中に 213 本のファンドが名称変更を行い、そのうち 50 本は ESG のキーワードをファンド名称から外している。米国では合計 19 本のサステナブル投資ファンドが償還され、6 四半期連続で新規設定ファンド数を上回った。
- ▶ 欧州におけるファンドの名称規則など、グリーンウォッシング防止等のための規制を定める期限が迫っており、今後数か月でサステナブル投資ファンドのユニバースにおいての変化が強まると予想される。

世界のサステナブル投資ファンド・ユニバース

世界のサステナブル投資ファンド・ユニバースは、目論見書や規制当局への提出書類などで、持続可能性、インパクト、ESG（環境・社会・ガバナンス）の要素に焦点を当てることを表明しているオープンエンド型ファンドと ETF（上場投資信託）で構成されるものである。

本レポートでは、世界のサステナブル投資ファンドのユニバースを欧州、米国、その他の地域の国籍ごとに分類している。カナダ、オーストラリア、ニュージーランド、日本についてはより詳細なデータを掲載している。中国、香港、インド、インドネシア、マレーシア、シンガポール、台湾、タイ、韓国は資産規模が比較的小さいため、「アジア（除く日本）」として分類している。日本語版のレポートでは日本以外の詳細なデータは割愛しているため、各地域の詳細については、原文の[英語版レポート](#)を参照されたい。

ここからは、世界のサステナブル投資ファンドにおける直近の資金動向に焦点を当て、2024 年第 4 四半期の地域別資金フロー、運用資産残高、新規設定について詳述する。以下の図表 1 は概要となる。

図表 1 世界のサステナブル投資ファンドの概要

地域	純資金流入額		運用資産残高		ファンド数	
	2024年第4四半期	2024年第3四半期				
	10億米ドル	10億米ドル	10億米ドル	割合%	本数	割合%
欧州	18.5	8.9	2,679	84	5,502	73
米国	-4.3	-2.0	344	11	612	8
アジア（除く日本）	2.7	2.4	74	2	632	8
カナダ	-0.1	-0.1	36	1	267	4
オーストラリア・NZ	0.4	0.6	31	1	261	3
日本	-1.1	-0.6	22	1	236	3
全体	16.0	9.2	3,186		7,510	

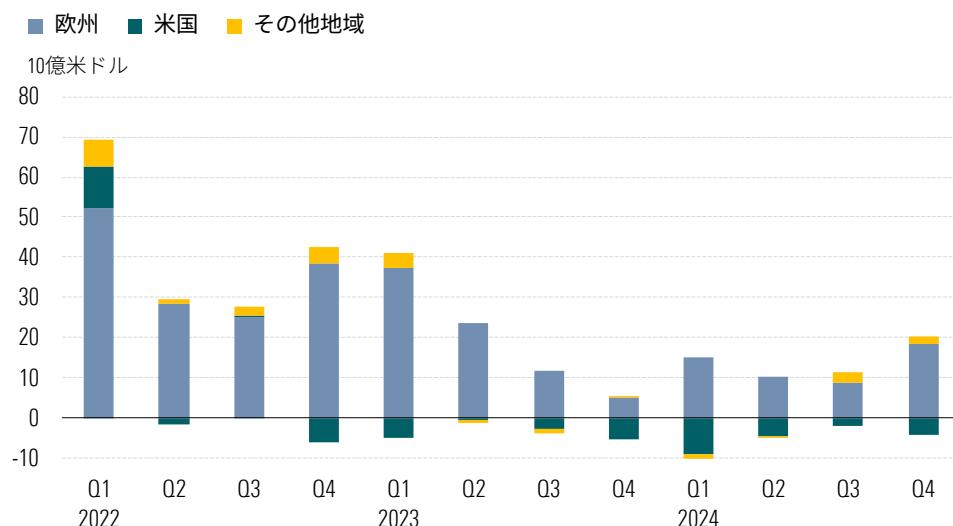
出所: Morningstar Direct、2024 年 12 月末時点

2024 年第 4 四半期は、世界のサステナブル投資ファンドへ 160 億ドルの純資金流入があり、四半期ベースで 2024 年の最高の資金流入額で年を終えた。この要因は主に、欧州のサステナブル投資ファンドが好調であったことにある。欧州のサステナブル投資ファンドへの純資金流入額は、前期の 89 億ドルから倍増以上の 185 億ドルを記録した。サステナビリティ先進地域であり、世界最大のサステナブル投資ファンドの市場である欧州が、世界市場の 84%を占め、欧州が重要な役割を果たしていることを示している。

対照的に、米国の純資金流出額は前四半期の 20 億ドルからさらに拡大し、43 億ドルとなった。日本を除くアジアへの純資金流入額は 27 億ドルと小幅な伸びを示したが、世界のサステナブル投資ファンド全体に占める割合は 2%程度と、その寄与は依然として小さい状況である。日本では、純資金流出額は 10 億ドルを超え、前四半期の 6 億ドルからほぼ倍増となった。

2024 年の第 4 四半期の世界のサステナブル投資ファンドの成長率¹は 0.51%にとどまった。同時期のファンド市場全体の純資金流入額は 4,070 億ドルであり、その成長率は 0.78%であり、世界のサステナブル投資ファンド市場の成長率は、市場全体を大きく下回る結果となった。

図表 2 世界のサステナブル投資ファンドの四半期資金純流入

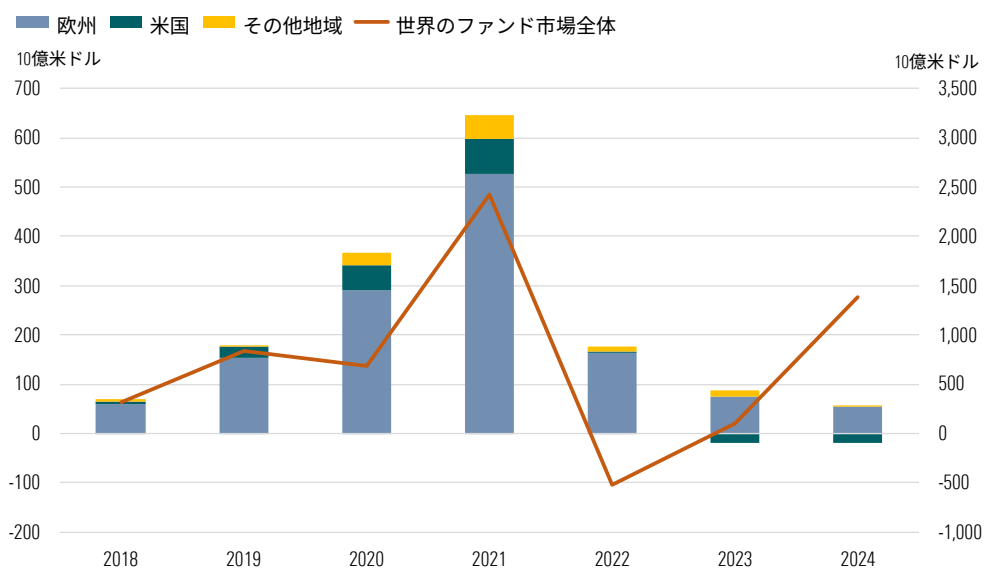


出所: Morningstar Direct、2024 年 12 月末時点

図表 3a は様々な地域におけるサステナブル投資ファンドの資金フローの変動を時系列で示している。世界のサステナブル投資ファンドへの資金フローは 2021 年に 6,450 億ドルとピークに達し、ファンド市場全体も大きな恩恵を受け、2.4 兆ドルと記録的な資金フローとなった。しかし、2022 年にはウクライナ戦争、高インフレ、景気後退懸念など厳しいマクロ環境を背景に、世界のサステナブル投資ファンドのフローは 75%減となった。ただし、総じて資金フローは純資金流入であった。米国を除く他の市場では、2023 年のサステナブル投資ファンドの資金フローは底堅く推移し、徐々に回復の方向に向かった。2024 年末には米国株の上昇に後押しされ、ファンド市場全体では資金流入が見られたものの、サステナブル投資ファンド市場では純資金流入額は 360 億ドルにとどまり、最低水準にまで落ち込む結果となった。

¹ 2024 年の第 4 四半期開始時点の運用資産残高に対する純資金流入額の割合

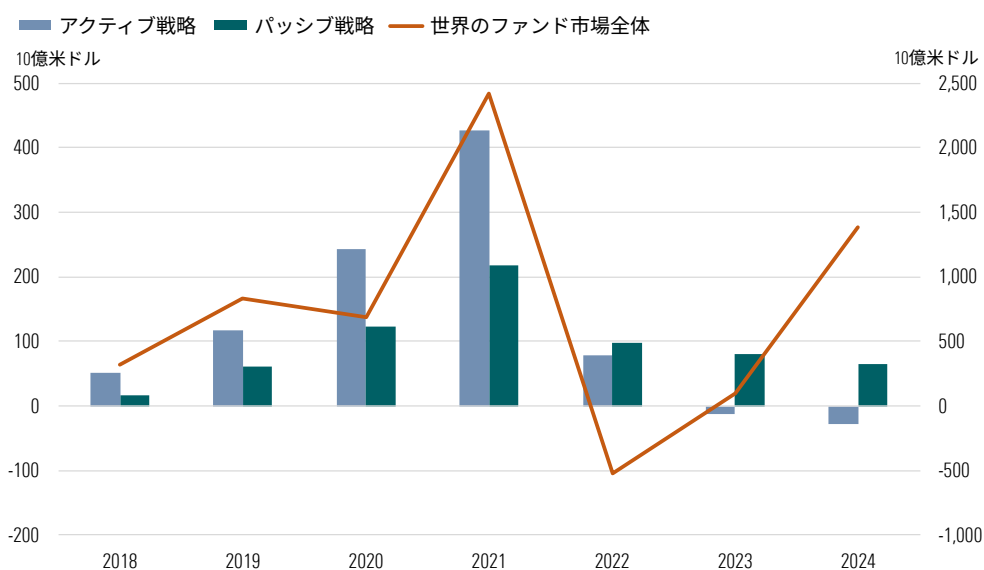
図表 3a 世界のサステナブル投資ファンドの年間資金純流入額の推移



出所: Morningstar Direct、2024 年 12 月末時点

図表 3b を見ると、アクティブ戦略のサステナブル投資ファンドが、近年のサステナブル投資意欲の低下により最も苦境に立たされていることが読み取れる。しかし、パッシブ戦略のサステナブル投資ファンドについては、資金純流入額は減少傾向にあるものの、資金を継続的に集めていることが示されている。この傾向は、投資家がより低コストの運用戦略に目を向ける中で、市場全体でみられるアクティブからパッシブへのシフトが、サステナブル投資にも反映されていると考えられる。

図表 3b アクティブ・パッシブ別の年間資金純流入額の推移



出所: Morningstar Direct、2024 年 12 月末時点

近年の投資家のサステナブル投資ファンドに対する投資意欲低下は、様々な要因が複合的に影響していると考えられる。ESG 戦略の平均的なパフォーマンス低下、グリーンウォッシュへの懸念、規制の変更、米国における反 ESG の高まりなどが、その要因の一部に挙げられる。

2024 年は、サステナブル投資ファンドにとって激動の一年となった。パフォーマンス面では、高金利がクリーン・エネルギー関連銘柄やその他のグリーン関連銘柄などを含む市場の一部に不利な影響を与え続けた。さらに米国では、選挙が行われる重要な年ということに加え、反 ESG の動きが強まり、一部の州では投資判断に ESG 基準を組み込むことを制限する法的措置が取られることもあった。

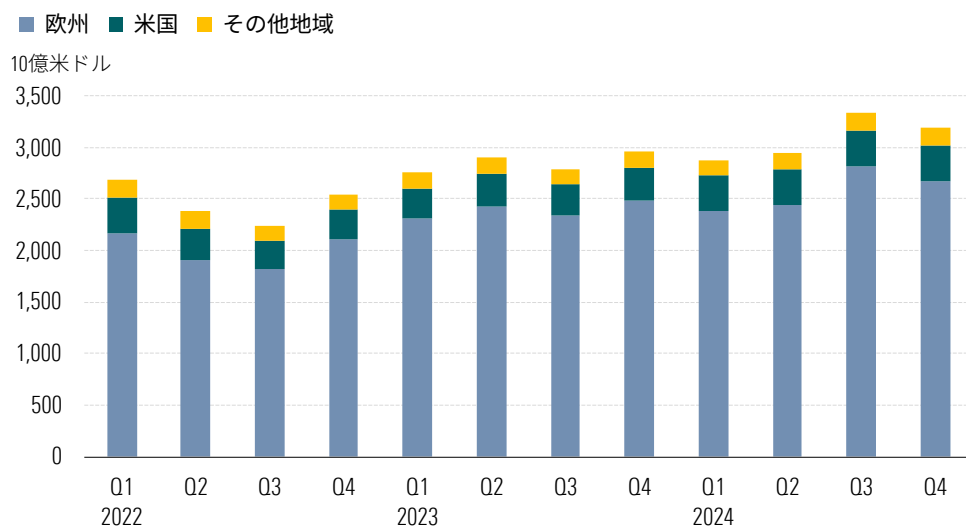
また、近年のサステナブル投資ファンドが記録した資金流入の減少は、サステナブル投資への投資家の継続的な関心を示す他のいくつかの調査とは対照的であった。例えば、モルガン・スタンレーが 2024 年に発表した調査によると、個人投資家の 54% が 2024 年内にサステナブル投資を増やす予定であり、77% がサステナブル投資に関心を持っていると回答した。さらに、モーニングスター・サステナリティクスが 2024 年前半に実施した [Voice of the Asset Owner survey](#) の調査によると、投資家は投資判断において ESG 要素を考慮するという傾向も見られた。具体的には、北米在住の投資家の 61% が過去 5 年間で ESG の重要性が増したと回答しており、多くの投資家は ESG への配慮は受託者責任を果たすことと密接な関係があると考えているようである。

2024 年 12 月に発表されたモルガン・スタンレーによる[最新調査](#)では、78% の運用会社と、80% のアセット・オーナーは、関連データの欠如とグリーンウォッシュは引き続き課題になるであろうと述べながらも、今後 2 年間のサステナブル投資の資産配分は増加すると予想している。

世界のサステナブル投資ファンド市場には縮小が見られ、運用残高は 3.2 兆に微減

世界のサステナブル投資ファンドの運用資産残高は、2024 年末に 3 兆 2,000 億ドルとなり、過去最高を記録した第 3 四半期末の 3 兆 3,000 億ドルから 4% 減少した。同期間は米国大統領選挙、米国ドル急騰、根強いインフレ、慎重な利下げ姿勢など、市場に様々な変化が見られた時期であり、Morningstar グローバル株式指数は 1.3% 下落した。債券市場はさらに厳しい四半期となり、米連邦準備制度理事会（FRB）が利下げを当面行わないとの見方が広がる中、Morningstar グローバルコア債券指数は 5.1% 下落した。

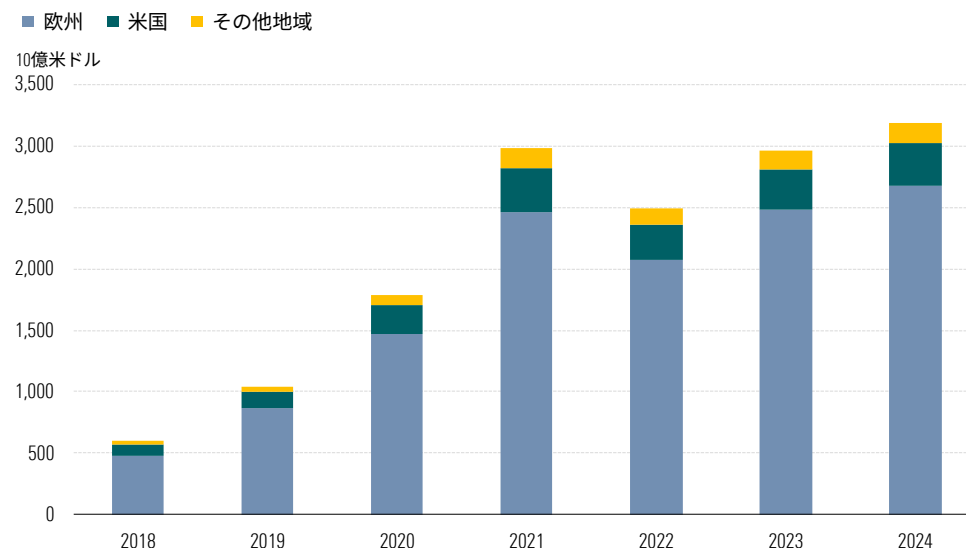
図表 3c 世界のサステナブル投資ファンドの運用資産残高四半期推移



出所: Morningstar Direct、2024 年 12 月末時点

図表 3d は 2018 年以降の各年末の運用資産残高を示している。ファンド・フローが減少する中でも、世界のサステナブル投資ファンドの運用資産残高は 2024 年末に 3 兆 2,000 億ドルと過去最高を更新し、前年比 8%増、2018 年比で 4 倍以上の成長を遂げた。米国のサステナブル投資ファンドは、過去 7 年間にわたり世界のサステナブル投資ファンド市場の約 15%を占めていたが、2024 年末には 11%まで低下した。一方、その他の地域は 2018 年の 0.7%から 2.3%へとシェアを拡大した。

図表 3d 世界のサステナブル投資ファンドの運用資産残高年間推移

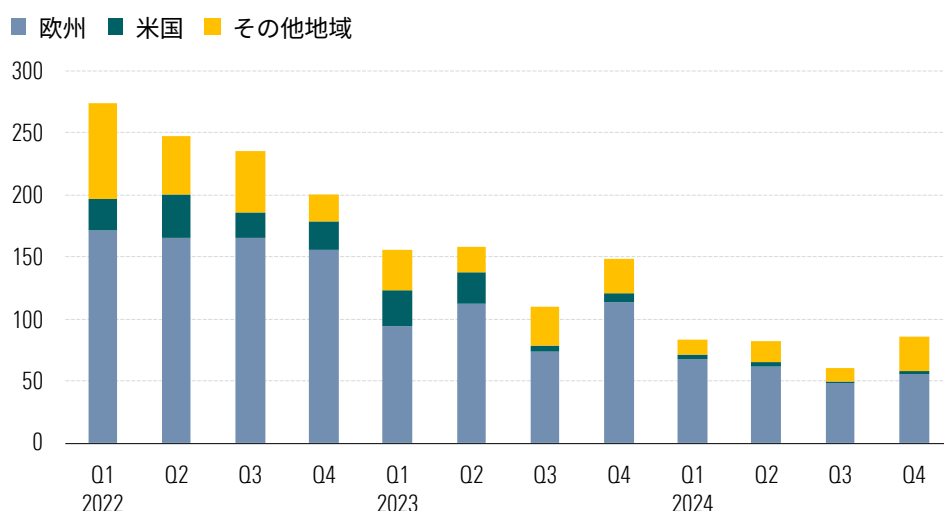


出所: Morningstar Direct、2024 年 12 月末時点

世界のサステナブル投資ファンドの新規設定、リブランディング

2024 年第 4 四半期の世界のサステナブル投資ファンドの新規設定は回復基調にあり、新規設定ファンド数は前期 60 本から今期 86 本へと増加した。なお、今後のレポート執筆時点で、モーニングスターへの追加報告により新規設定ファンドの数が増える可能性があり、86 本という数値は上方修正される可能性が高い点に留意が必要である。

図表 4 世界のサステナブル投資ファンドの新規設定数の四半期推移



出所: Morningstar Direct、2024 年 12 月末時点

2024 年を通じて、世界全体で新たに 311 本のサステナブル投資ファンドが設定された。これは、2023 年の 572 本と比較するとペースが落ち着いたことを示している。過去 3 年間、特に欧州を中心に、多くの資産運用会社が市場の需要拡大に対応し、サステナブル投資ファンドの中核ラインアップを急ピッチで構築してきた。しかし現在は、より選別的かつ戦術的なアプローチで商品を設定する運用会社が増えており、新規設定数の減速は、サステナブルファンドの商品開発が正常化しつつあることを反映している。さらに、規制の強化、反 ESG の高まり、グリーンウォッシュへの批判の継続などを背景に、多くの運用会社が慎重な姿勢を強めている。

また、サステナブル投資ファンドの償還やリブランディングの動きも活発化している。欧州では第 4 四半期にその動きが加速し、94 本のサステナブル投資ファンドが償還・合併、2024 年通年では 351 本の償還・合併を記録した。リブランディングについては、同年中に欧州で 213 本のファンドが名称変更を行い、そのうち 50 本は ESG のキーワードをファンド名称から外している。米国では合計 19 本のサステナブル投資ファンドが償還され、6 四半期連続で新規設定ファンド数を上回った。

ブラックロックが首位に

以下では、サステナブル投資ファンドを世界的に展開している主要な資産運用会社を紹介する。世界最大の運用会社であるブラックロックは、ESG に特化したオープンエンド型ファンドおよび ETF で 4,230 億ドル超の運用資産残高を誇り、サステナブル投資分野で圧倒的な存在感を示している。これに大きく差をつけられつつも、UBS が約 1,800 億ドルで 2 位、Amundi が約 1,780 億ドルで僅差の 3 位となっている。

図表 5 サステナブル投資ファンドの運用資産残高の上位運用会社

総合			アクティブ運用			パッシブ運用		
運用会社名	2024年		運用会社名	2024年		運用会社名	2024年	
	資産残高 (10億ドル)	資金フロー (100万ドル)		資産残高 (10億ドル)	資金フロー (100万ドル)		資産残高 (10億ドル)	資金フロー (100万ドル)
BlackRock (incl. iShares)	422.7	15,135	BlackRock (incl. iShares)	107.1	6,603	BlackRock (incl. iShares)	315.6	8,532
UBS (incl. Credit Suisse)	180.1	-553	Amundi (incl. Lyxor)	76.5	-6,977	UBS (incl. Credit Suisse)	107.6	1,063
Amundi (incl. Lyxor)	178.4	-2,801	Natixis	76.2	4,463	Amundi (incl. Lyxor)	101.8	4,176
DWS (incl. Xtrackers)	103.5	1,786	UBS (incl. Credit Suisse)	72.5	-1,615	Vanguard	56.5	3,874
Swisscanto	98.7	11,320	Nordea	67.9	8,215	Northern Trust	54.1	3,585
Natixis	78.8	4,279	DWS (incl. Xtrackers)	54.8	-4,321	DWS (incl. Xtrackers)	48.6	6,107
BNP Paribas	73.6	-3,518	Swisscanto	54.6	1,706	Swisscanto	44.0	9,613
Nordea	67.9	8,215	KBC	53.7	3,038	Handelsbanken	37.0	5,440
Vanguard	59.9	4,261	Royal London	53.2	-557	BNP Paribas	31.6	-6
Northern Trust	58.8	4,440	Allianz Global Investors	48.9	1,728	State Street	28.5	2,184
KBC	53.8	3,026	Pictet	43.2	-7,430	Länsförsäkringar	22.6	3,070
Royal London	53.2	-593	BNP Paribas	42.0	-3,513	Legal & General	20.9	-1,827
Allianz Global Investors	48.9	1,728	Parnassus	37.9	-7,315	Invesco	18.9	1,307
Pictet	44.7	-7,369	JPMorgan	36.7	12,994	Cathay Securities Investment Trust	11.9	3,053
Handelsbanken	41.2	4,808	Union Investment	34.0	-198	Morgan Stanley	11.0	-455
JPMorgan	40.0	13,425	Goldman Sachs (incl. NNIP)	31.3	-1,496	HSBC	9.7	283
Morgan Stanley	38.3	-2,600	Robeco	28.2	-1,211	Storebrand Fonder	8.4	-880
Parnassus	37.9	-7,315	AXA IM	28.0	-3,137	Capital Investment Trust	8.2	6,770
Union Investment	34.0	-198	Morgan Stanley	27.3	-2,145	Mercer Global Investments	8.1	19
State Street	33.8	2,237	Vontobel	26.7	-518	Scottish Widows	7.6	1,145

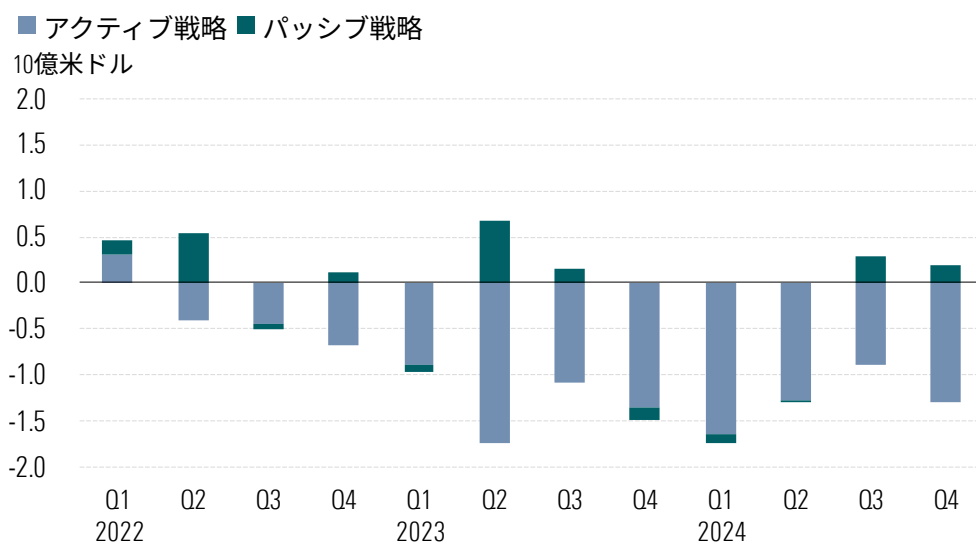
出所: Morningstar Direct、2024 年 12 月末時点

日本

2024 年第 4 四半期、日本のサステナブル投資ファンド（公募追加型株式投資信託と ETF）は 10 四半期連続で資金流出となり、10 億ドル（1,665 億円）以上の純資金流出額を記録した。これは同期間に日本のファンド市場全体が 128 億ドル（1.95 兆円）の純資金流入を記録したことに対照的である。

アクティブ運用のサステナブル投資ファンドは、11 四半期連続で資金流出となった一方、パッシブ運用のサステナブル投資ファンドは前期同様に純資金流入となり、1 億 9 千万ドル（306 億円）の流入を記録した。アセットマネジメント One のグローバル ESG ハイクオリティ成長株式ファンド（為替ヘッジ無し）は 2024 年を通じて最大の資金流出ファンドとなり、2024 年第 4 四半期は 3 億 3,500 万ドル（534 億円）の純資金流出を記録した。

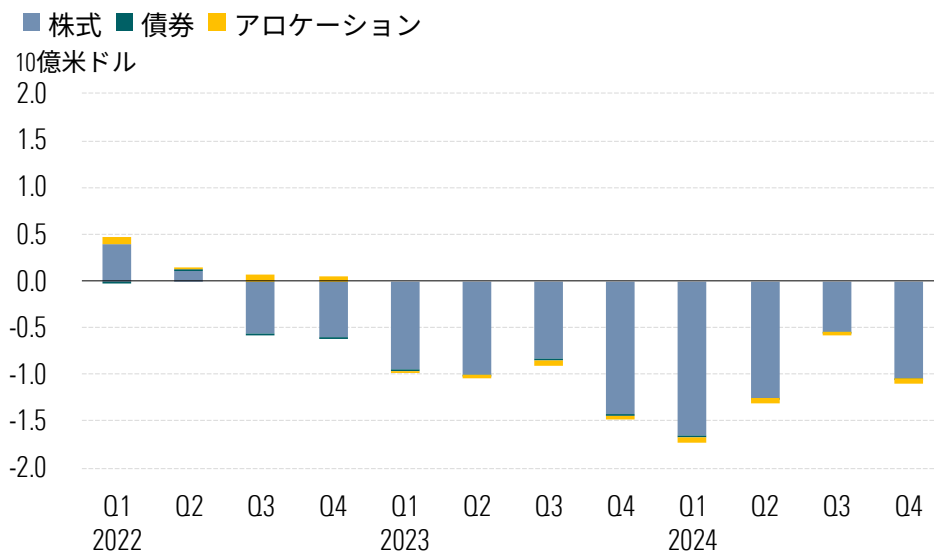
図表 6 日本のサステナブル投資ファンドの純資金流入額の四半期推移



出所: Morningstar Direct、2024 年 12 月末時点

2024 年第 4 四半期も前期同様、日本のサステナブル投資を行う株式ファンドは 5 億 4,000 万ドル（1,578 億円）の純資金流出となり、第 4 四半期における流出額のほぼ全額（95%）を占める結果となった。資金流出額が大きかった上位 20 位中、19 本のファンドは株式ファンドであった。

図表 7 日本のサステナブル投資ファンドの資産クラス別純資金流入額の四半期推移



出所: Morningstar Direct、2024 年 12 月末時点

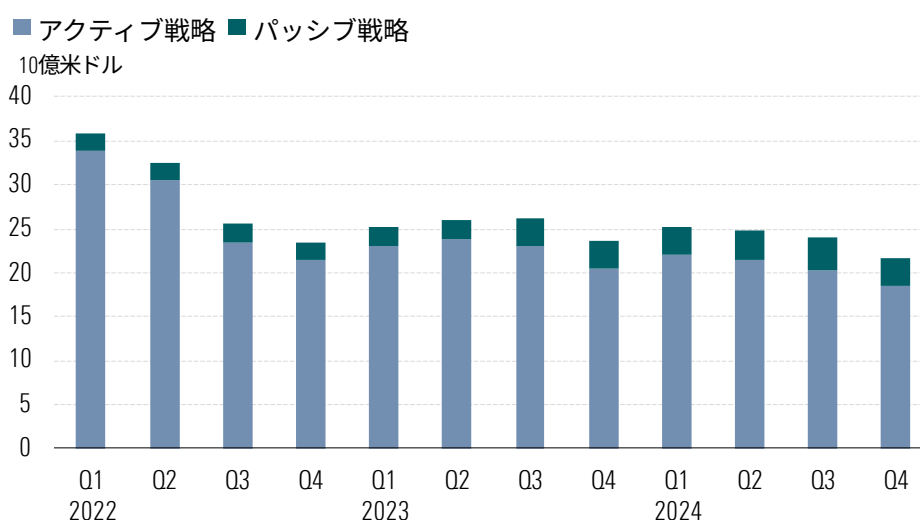
運用資産残高

日本籍のサステナブル投資ファンドの 2024 年第 4 四半期末の運用資産残高は 217 億ドル（3.4 兆円）であった。多くの日本籍のサステナブルファンドが投資している世

界株式のパフォーマンスを示す Morningstar グローバル株式ターゲット・マーケット・エクスポージャー指数（グロス、米ドルベース）は、同期間に 1.08% の下落を記録したが、このリターンに対して、第 4 四半期に運用資産残高が 12.5% 減少したことから、資金流出の影響が大きかったことが分かる。

アクティブ運用ファンドは依然として大部分を占め、サステナブル投資ファンドの運用資産残高全体の 85% を占めている。また、前述の通り、大半は株式ファンドである。

図表 8 日本のサステナブル投資ファンドの運用資産残高の四半期推移

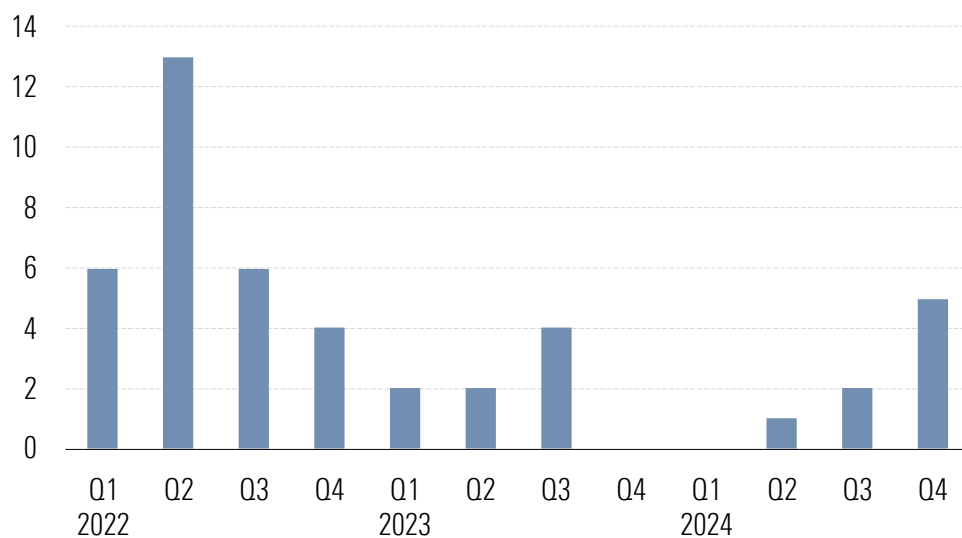


出所: Morningstar Direct、2024 年 12 月末時点

新規設定

2024 年第 4 四半期、日本市場のサステナブル投資ファンドは 5 本の新規設定があった。5 本のうち 2 本は三井住友 DS アセットマネジメントのグローバル債券に投資するファンドであり、残りの 3 本は株式ファンドであった。新たに設定された株式ファンドには、**まあい未来共創ファンド cotocoto**、**DC 日本株人財活躍企業応援ファンド**、**NEXT FUNDS MSCI ジャパン気候変動指数（セレクト）連動型上場投信**が含まれる。**まあい未来共創ファンド cotocoto** はコモンズ投信が 2 年の準備期間を経て設定した、同社にとって約 10 年ぶりの新規の公募ファンドであり、持続可能な社会の実現を目指し、社会的インパクトの創出を重視した国内上場企業に長期的に投資するファンドである。**DC 日本株人財活躍企業応援ファンド**は日興アセットマネジメントにより 2024 年 10 月に新規設定され、人材投資効率や労働分配率、経営者予測慎重度などを重視して優れた企業に投資を行う。**NEXT FUNDS MSCI ジャパン気候変動指数（セレクト）連動型上場投信**は第 4 四半期に新設された唯一の ETF であり、MSCI ACWI セレクト・クライメート 500 指数に含まれる日本企業で構成される株価指数に連動する運用商品である。■

図表 9 日本のサステナブル投資ファンドの新規設定ファンド数推移



出所: Morningstar Direct、2024 年 12 月末時点

Morningstar Manager Research Services ディスクロージャー（日本）

モーニングスター・マネジャー・リサーチについて

モーニングスター・マネジャー・リサーチは、運用商品の戦略に対し、独立の立場からのファンダメンタル分析を提供しています。運用担当者（People）、運用プロセス（Process）、運用会社（Parent）の 3 つの主要な評価軸についてのアナリストのリサーチに基づく見解は、モーニングスター・メダリスト・レーティングとして公表されます。世界中のリサーチチームが、投資商品、資産クラス、および各地域にまたがる戦略について、詳細なアナリスト・レポートを発行しています。メダリスト・レーティングは、意見であり、事実の表明するものではなく、将来のパフォーマンスを示唆または保証するものでもありません。

モーニングスター・マネジャーリサーチ・サービスについて

モーニングスター・マネジャーリサーチ・サービスは、モーニングスターのファンドリサーチ・レポート、レーティング、ソフトウェア、ツール、およびモーニングスター独自のデータの提供と、モーニングスターのマネジャーリサーチ・アナリストへのアクセスを同時に実現させています。銀行、ウェルスマネジャー、保険会社、政府系ファンド、年金基金、エンダウメント（寄贈基金）、財団などの機関投資家が、内部で行うデューデリジェンスを補完する機能を提供しています。モーニングスターのマネジャー・リサーチ・アナリストは、Morningstar, Inc. のさまざまな完全子会社（Morningstar Research Services LLC (USA)、Morningstar UK Ltd、および Morningstar Australasia Pty Ltd が含まれますが、これらに限定されません）に所属しています

お問い合わせ先

Morningstar Manager Research Services

ManagerResearchServices@Morningstar.com



モーニングスター・ジャパン株式会社
東京都港区新橋 1-1-1 日比谷ビルディング 6 階

©2025 Morningstar. All Rights Reserved. 別段の合意がない限り、本資料は配信者の所在する国においてのみ使用することができます。本資料に記載されている情報、データ、分析、意見は、投資助言ではなく情報提供のみを目的としたもので銘柄の売買を推奨するものではありません。また、情報の正確性や完全性を保証するものでもありません。本資料の内容は、記載された日付時点のものであり、予告なく変更されることがあります。モーニングスターは、法律により定められている場合を除き、本資料の情報、データ、分析、意見を利用して行いたいかなる投資の判断、損失、損害に責任を負いません。本資料にはモーニングスターの専有情報が含まれており、モーニングスターから事前の書面による承諾がない限り、当資料の一部あるいは全ての複製ならびに再配布等の使用はできません。過去のパフォーマンスは、必ずしも金融商品の将来のパフォーマンスを示唆するものではありません。リサーチに関するライセンス利用のお問い合わせは+1 312 696-6869 までご連絡ください。